

令和3年度第1回横須賀市精神保健福祉連絡協議会会議録

- ・ 日 時： 令和4年2月18日（金）書面会議
- ・ 出席者 青木則幸、柏美樹、柏木孝子、加藤幸次、木村充、後藤健一、小林正稔、
佐藤洋志、志戸ゆかり、下江秀雄、重城真知子、鈴木香織、高屋淳彦、
田村千秋、中野浩志、藤崎啓造、逸見浩輔、宮崎大輔、山本修三
（敬称略、五十音順）
- ・ 事務局： 小菅俊彦 ：健康づくり課長補佐
 増田浩子 ：健康づくり課主査
 菅祐太郎 ：健康づくり課
 田杭真澄 ：健康づくり課

1 議事

- (1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの取組み状況
 - ・「資料1-1 横須賀市の精神保健福祉の状況」、「資料1-2 令和3年度横須賀市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業実績報告」、「資料1-3 令和3年9月自殺予防街頭キャンペーン実施報告」を配付し、意見及び質問を求めた。
 - ・意見等は別添回答一覧（議事1）のとおり。
- (2) 横須賀市障害者基幹相談支援センター設置について
 - ・「資料2 横須賀市障害者基幹相談支援センターについて」を配付し、意見及び質問を求めた。
 - ・実施状況等は別添回答一覧（議題2）のとおり。
- (3) 福祉のLINE相談の実施について
 - ・「資料3 LINEを活用した相談窓口開設」を配付し、意見及び質問を求めた。
 - ・実施状況等は別添回答一覧（議題4）のとおり。
- (4) その他
 - ・書面会議についての意見・感想、次回以降に取り上げたい議題について意見を求めた。
 - ・意見等は別添回答一覧（その他）のとおり。

以上

令和3年度 第1回横須賀市精神保健福祉連絡協議会 回答一覧

議事1 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの取組み状況			
湘南病院	中野構成員		3ページですが、精神障害者に対して身体介護のサービス利用がもっとあってもいいと思います。利用しにくい印象がありますが如何ですか？
NPO法人横須賀つばさの会	下江構成員		精神科入院患者の入院内訳、入院期間ごとの入院先内訳、及び、長期入院者を見ると横浜市は横須賀市の人口が約10倍にもかかわらず非常に低い。要因として横浜市の生活支援センターがあり・訪問による生活支援・コミュニケーション支援・緊急時対応があり安心して退院できる施設がある。また居場所の提供及び生活サポートの施設も有る。横浜市の支援生活支援センター(アシスタント支援事業)は精神施設で17カ所ある。横須賀市の場合は十分の一なので2カ所欲しい。 東京都が低いのは3年前の講演で聞いたように障害者基幹相談センターにチーム事に一名の精神保健福祉士がおり訪問支援までしている。また精神保健福祉士同志の連絡をとりながら進めている。
神奈川県司法書士会横須賀支部	逸見構成員		他の知的・身体障害者への手帳交付件数は際立った増加がない中、精神保健福祉手帳及び受給者証の交付者数は著しく増加をしていると思われる。これは支援が必要とされる方にきちんと情報が伝達されるようになり、取得する人が増えてきたことによるものでしょうか。その一方で、福祉サービスを提供する福祉事業者の数は微増であり、現在、希望する方にサービスをどの程度提供出来ているのか課題は出ていないのかと感じました。
衣病訪問看護ステーション長瀬	志戸構成員		横須賀市の65歳未満の入院患者の減少は、通院している保険医療機関が、他市が多い事も要因だと考えます。高齢になると他市への通院はかなり困難になります。若い方は、世間体を考えたり専門的な治療を求めて医療機関を選択しているからだと考えます。今後横須賀市で、若い精神障害者の自立生活を支援できる、グループホーム等の施設の増設はあるのでしょうか。
一般社団法人神奈川県精神保健福祉協会	柏構成員		コロナ禍となり2年が経過しました。感染拡大防止のため、人との混雑や接触を避けるということで様々な会議や研修、イベントが中止を余儀なくされております。しかし、必要な支援までも「感染対策」という名のもとに回避されているように感じます。 もちろん、支援者や会議運営者の安全確保も重要です。コロナ禍3年目の来年度は、この2年の感染対策の実績をもとに、オンラインの活用や感染対策を行っての生活を止めない面接や面談、訪問活動などを期待します。 会議や研修はやれるときに実施するのではなく、やるべきこととして事業計画や実施要項に掲載されていると思います。我々構成員も意見だけでなく実践でも協力をしていきたいと思っておりますので、生活している市民や障がいのある方の暮らしを止めないような取り組みにしていきたいと思っております。
本庁第一地域包括支援センター	柏木構成員	資料1-3	資料1-3「令和3年度 自殺予防街頭キャンペーン」について、実際にどのくらいの方が見てくださったのかわかりませんが、メッセージが122枚集まったのは、それだけ関心があったからだと思います。難しいとは思いますが、年に2回ぐらいあってもいいのかなと思います。または、10日間位期間があれば、少しでも多くの方の目に留まり、関心を持っていただけたらと思います。
久里浜医療センター	木村構成員		グループホームの定員が増え、長期の入院患者の割合が徐々に減少しており、着実に入院から地域への移行がスムーズに進むようになってきており、素晴らしいと思います。 精神科の入院病床数は、久里浜医療センターの医療観察法病床数も含めているのでしょうか。 コロナ禍で家族支援や啓発活動も限られてしまうと思いますが、オンラインでの講演会の実施は良い取り組みだと思いました。
仕事探しクラブ	宮崎構成員		今回の街頭キャンペーンは、コースカを会場として行われていたが、今後もあのような場所で出来ると良いと思います。
特定非営利活動法人えがお すまいるEnn	重城構成員		特に意見はありません。コロナ禍ということもあり、活動等が見えにくい状況ですが、次年度も、この状況が続くのではと思われませんが、その中で取り組めることを考え、勉強できればと思います。
チームブルーよこすか	鈴木構成員		来年度に向けての意見で申し訳ないのですが、記入させていただきます。 令和4年度の障害とくらしの支援協議会の中で地域生活支援拠点等事業や地域移行について検討する会議が開催される予定であるため、本会議との連動が取れることを期待しています。また、市内に5カ所あるサポートセンターとの連携も地域包括ケアシステムの中では重要なのではないかと思いますので、サポートセンター会議に是非ともご出席いただきたいです。地域の精神障害者の方の相談支援についても保健所と一緒に考えていきたいと思っています。 ピアサポート活用に係る事業について、現在横須賀市でピアサポーターと認定できる研修の実施がないため、横須賀市独自のピアサポート養成システムを作って、他市のように沢山のピアサポーターを輩出していただきたいです。
福井記念病院	高屋構成員		横須賀市・三浦市の患者さんの大部分がこの両市の精神科病院に入院していることから、地域におけるネットワークが重要な役割を果たすと感じます。今後も地域と病院の密接な連携が必要と思われます。入院期間もより短期間になることが求められと思います。 街頭キャンペーンについては、自殺予防対策とともに精神疾患全般に対する認識をより深められるよう進めてゆく必要があると思います。

令和3年度 第1回横須賀市精神保健福祉連絡協議会 回答一覧

とらいむ	田村構成員		グループホームには滞在型と通過型グループホームがあります。滞在型は、利用期間を設けず、利用者の方の自立のペースに合わせてくれる施設です。その施設に入所したら、なかなかその施設を卒業される方はいないようです。通過型では、一生その施設にいるわけにはいきません。生活スキルや精神的自立のめどがたったら利用者の方たちは卒業しなければいけません。私の勤める横浜市鶴見区にある社会福祉法人うしおだ 精神障がい者グループホームハイムつばきは通過型なので、利用者の方たちになるべく早く自立してもらい、卒業していただき、長期入院患者さんたちをできる限り受け入れるようにしています。通過型グループホームに努め、利用者さんたちが地域で一人暮らしをする手伝いを日々行い、長期入院患者さんたちを受け入れることを助けさせていただいている身としては、グループホームが増え、入院患者さんたちを地域で受け入れてもらう中間施設が増えてうれしい。グループホーム、特に通過型が増えれば入院患者さんたち、特に長期入院患者さんたちが病院などから退院できるようになるからです。けれど、まだグループホームは少ないようですので、特に通過型グループホームを増やして、入院患者さんの受け入れ先を増やしてほしいです。通過型が増えてくればより多くの入院患者さんたちを救えると思います。
議事2 横須賀市障害者基幹相談支援センター設置について			
仕事探しクラブ	宮崎構成員		どのような活動をされているか伝わりにくい事もあると思うのでコロナで難しいでしょうがさまざまな方法で広く周知していただきたいと思います。
湘南病院	中野構成員		大切な事業と考えています。横須賀市では基幹相談を受けにくい印象が有ります。事業所が少ないのでしょうか？
NPO法人横須賀つばさの会	下江構成員		専門家の医師、弁護士、等の派遣はよいと思いますが、東京都の事例のように精神保健福祉士が細かい訪問支援をした方が効果があると思われる。
神奈川県司法書士会横須賀支部	逸見構成員		障害者機関相談支援センターは、どこに相談に行けば分からないケース(知的障害と精神障害の双方が見受けられる場合など)について、障害福祉課や保健所に行かず、こちらを活用するようにしていくというイメージで合っているでしょうか？
衣病訪問看護ステーション長瀬	志戸構成員		専門的コンサルテーションの活用に期待します。
一般社団法人神奈川県精神保健福祉協会	柏構成員		生活の質の向上やきめ細かいニーズにこたえるための支援がサービス提供事業所や家族に担わしてしまう状況もあります。今後の基幹相談支援センターの活動に期待をしています。
本庁第一地域包括支援センター	柏木構成員		昨年4月に設置され、相談件数(障がい者)に関する相談件数は923件とかなり相談が来ていることがわかります。また専門的コンサルテーションは5件との事です。その内訳や相談内容は具体的にはどんな内容なのか、年齢等について、可能であれば教えていただきたいと思います。包括支援センターでは、いろいろな相談を受けています。対象者は概ね65歳以上の方になりますが、その方を支援されているかたが、障がいを持っている方であったり(障がい者手帳をお持ちの方)、手帳を持っていない方で、高齢者の方を支援するには難しいと感じる方もいるので、市の総合相談係には相談させていただいております。センター業務についての(2)地域の相談支援体制の強化の取り組みについては、これからますます必要とされることだと思いますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。いろいろな関係機関とネットワークができ、相談機関が増えることは、いろいろな視点で支援を考えることができると思います。これからもよろしく願いいたします。
特定非営利活動法人えがお すまいるEnn	重城構成員		特にありません。基幹相談支援センターが設置されたのは一歩前進です。担当の方が努力されている状況と思います。まもなく設置後一年になりますが、どのようなことが行われているか等をもっと発信し、利用しやすい場所として進んでいくことを望みます。
久里浜医療センター	木村構成員		かなり多くの相談件数があるので、驚きました。
チームブルーよこすか	鈴木構成員		サポートセンターの委託元が障害福祉課から基幹相談支援センターに変更したこともあり、基幹相談支援センターとは会議やケースカンファレンスで連携を取っております。しかし、他機関の方からは基幹相談支援センターがどんな業務をして、どのような相談対応を事業所に対してしてくれるのか見えないとの声も聞いております。
福井記念病院	高屋構成員		今後障害者への相談支援事業はより重要性を増してくるものと思われまます。だれでも気楽に相談できる雰囲気を作ってゆくことが大切であると思います。
とらいむ	田村構成員		基幹相談支援センターは地域における障がい者の相談支援の中核的な役割をする機関であると学びました。高齢者には何か問題が起きた時には地域包括支援センターを頼るように、障がい者には何か問題が起きたら基幹相談支援センターを頼りにするようになると思います。けれど、今現在横須賀市に基幹相談支援センターがあることを知っている精神障がい当事者の方たちは少ないと思いますので、周知活動の必要性があるかと思ひます。(すでに周知活動はされているけれど、私が知らないだけかもしれません)
議事3 福祉のLINE相談の実施について			
仕事探しクラブ	宮崎構成員		コロナで外出をすることに抵抗を感じている方や、窓口まで行く時間がない方などもいると思うので、良いと思います。
NPO法人横須賀つばさの会	下江構成員		LINE相談もよいが、私は10年間電話相談を経験しましたが、そのほとんどがリピーターで世間話をしてきました。確かに話し相手になることも必要なのですが担当者の忍耐が必要です。横須賀市の(精神保健福祉こころの相談ガイド)の冊子に32ページにわたり相談窓口が載っています。しかし相談業務の中ではほとんすと難しい問題はたらい回しになっています。横須賀市に必要なことは横浜市や東京都の用に実務的な行動つまり訪問支援などが必要ではないでしょうか。

令和3年度 第1回横須賀市精神保健福祉連絡協議会 回答一覧

衣病訪問看護ステーション長瀬	志戸構成員		若年層や、外出ができない方々がLINEであれば利用しやすいと考えます。
一般社団法人神奈川県精神保健福祉協会	柏構成員		対面が苦手な方や非接触での面談など有効な事案だと思います。若者も利用しやすく利用料も無料ですので、相談しやすい窓口の一つとして期待しています。
本庁第一地域包括支援センター	柏木構成員		福祉のLINE相談について、今年の2月から開設されたことで、いろいろな方法で相談ができるので、良いと思います。横須賀LINEに登録されている方には、窓口の開設情報が入りますが、他の方にはなかなか入りにくいのではないかと思います。今後の相談件数等を見ながらまた検討をしていくと良いかと思います。
久里浜医療センター	木村構成員		面白い取り組みだと思います。ただ、対応する職員の業務はかなり大変ではないでしょうか。
特定非営利活動法人えがお すまいるEnn	重城構成員		特にありません。話すのが苦手な人はLINEは使いやすい手段です。伝えるだけでほっとする方もいるとは思いますが、開庁時間外は翌日迄待たなければならないのは、どうなのでしょう。行って見なければわかりませんが、経費を掛けて、どの程度のプラス等があるのか。
神奈川県司法書士会横須賀支部	逸見構成員		LINEの活用は対人コミュニケーションに課題を抱える方が多い精神障害を抱える方にとって、有効な手段となり得るのではないかと思います。その一方で広く周知されることで、その手軽さ故に職員の方々の負担が増加するのではないかと感じました。
チームブルーよこすか	鈴木構成員		LINEを活用することで土日や夜間の相談対応が可能となるのかと思いましたが、メールの返答は平日の日勤帯なのですね。対面での相談が苦手な方やひきこもりの方には有効ではないかと感じました。サポートセンターの一般相談や行政センター内の相談窓口との棲み分けや連携については今後検討していく必要があると感じています。どれだけ需要があったか、今後実績報告などをしていただきたいです。
とらいむ	田村構成員		LINEでの相談はとても有益だと思います。私も夜に悩み事ができて苦しいときは「LINE相談いのちのほっとライン@かながわ」に相談させていただいています。電話相談、対面相談と同じぐらい質のよいアドバイスがいただけてうれしいです。
福井記念病院	高屋構成員		LINEを使った相談にリアルタイムで応答することは、活气的だと思います。今後も広げていってほしいと思います。
議事4 その他			
NPO法人横須賀つばさの会	下江構成員		第六期福祉計画を教えてください。
神奈川県司法書士会横須賀支部	逸見構成員		統計資料 فقطだと、どこが注目すべき点なのか分かりにくいことが多いです。可能であれば、見るべきポイントを一言付けて頂けると、より注視出来ると思いました。
一般社団法人神奈川県精神保健福祉協会	柏構成員		回答が遅くなり申し訳ありませんでした。書面の方が意見を出しやすい方もおられるかもしれませんが、次回は対面もしくはオンラインなど(参加者が対面半分、オンライン半分などのハイブリッド)の活用もご検討ください。 次回以降 ・精神科医療機関の受診中断者への支援(各医療機関の取組) ・ひきこもりの方への支援 ・ひきこもりの方のご家族への支援など、市の取組や方向性などがあれば意見交換したいです。
本庁第一地域包括支援センター	柏木構成員		昨年、今年とコロナ禍で会の開催が中止されてしまいました。年に1度の会議なので、オンラインやZoom開催がされてもよかったのではないかと思います。ただ、書面会議については、資料を読み直したり、実際に横須賀LINEを開けて、確認等が自分の時間でできたので、良い点もありました。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。
久里浜医療センター	木村構成員		コロナ禍においては書面会議が適していると思います。今後ともよろしく願いいたします。
特定非営利活動法人えがお すまいるEnn	重城構成員		資料を読み回答する方法より、他の方の意見等も伺える会議は、資料だけでは解らないことも出てくると思います。
チームブルーよこすか	鈴木構成員		書面会議よりも対面の会議をしたいです。コロナで難しいのは承知の上ですが、希望としてお伝えしておきます。あとは議事1に記入したとおりです。
福井記念病院	高屋構成員		直接皆さんにお会いして交流できる日を楽しみにしております。